

農業経営情報会計・複式簿記講習会 開催要領

(平成28年度 第80回「京都大学 食と農のマネジメント・セミナー」第1クラス)

短期集中講義形式による複式簿記の原理と実践

－農業経営の改善を目指して－



主催	京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻
後援	農林水産省
後援	一般社団法人 農業開発研修センター、一般社団法人 食品需給研究センター
協賛	株式会社 昭和堂

1. 趣旨

近年、わが国の農業経営は著しく変貌し、その経営形態も伝統的な家族経営から法人経営や集落営農にまで多様化してきています。そして、これらの農業経営は、昨今の国際的・国内的環境変化のなかで、経営改善・強化の必要性に迫られてきております。こうした状況下で短期、長期の観点から合理的な経営改善・強化を図って行くためには、複式簿記記帳をベースとした経営諸活動に関する記録とそれらに基づいた分析・利用が不可欠であることはいうまでもありません。

本講習会ではこのような農業経営をめぐる状況を重視し、農業経営の経営管理に不可欠なツールである複式簿記の記帳方法と手続きを、その原理、理論的背景をも踏まえながら習得するとともに、農業簿記・農業会計に特有な勘定や記帳方式、評価方法について基礎的知識を学ぶための講習を行うものです。

さらに、農業経営の経営形態の多様化を踏まえ、家族農業経営、法人経営、集落営農組織の各々において簿記記帳を行う際の留意点や農業会計および農業部門における資金問題に関わる今日的な話題についても触れる予定です。本講習会の特色は以下の三点にあります。

第一に、本講習会では、複式簿記および農業簿記・会計に関する基礎的知識及び技術の理解、習得を目的とした講義、実習を2日間で集中して行います。短い期間ではありますが、しかし、集中的な講義と実践的な課題実習を併用することによって、複式簿記に関わる各種検定試験の初期準備段階として必要十分な内容となっております。

第二に、本講習会には、本学食料・環境経済学科の学生も参加します。将来をになう若い学生たちとの交流、情報交換の場としての機能も本講習会は備えております。

第三に、本講習会では受講者と講師陣とのネットワーク構築を心がけており、講習会終了後も参加者間、参加者と講師陣の間で情報交換や各種相談の受付等を継続的に行う予定であります。

なお、修了者には修了証書を発行します。

2. 期日・場所 京都大学農学研究科講義室
平成29年2月8日（水）午前9時～2月9日（木）午後6時
3. 研修対象 地方自治体・農協職員、農林水産省・農政局職員、団体・協会の職員、
農業経営者、研究者、学生など
4. 受講定員 15名
5. 受講料 7,200円

受講料は、申込み後、受講者決定通知を送付しますので、通知書受け取り後、指定の銀行に振込んでください。一度納付された受講料は、欠席の場合など理由を問わず返還することができませんので、ご注意下さい。

6. 申込方法

- a) 申込期間 原則は平成29年1月4日（水）から平成29年1月31日（火）まで
（ただし、申込み期間に関わらず必要に応じてその前後で随時受付けます）
- b) 申込手続 別紙申込書に必要事項を記入し、返信用封筒（長3規格、切手82円貼付、
返信先の住所・氏名記入）を同封のうえ申し込んでください。
（電話での申込みは受付けいたしません。）

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻

「公開講座」係

電話075-753-6200

- c) 申込の受理 受講者決定通知及び講習会案内を発送します。
- d) 講習料納入方法（銀行振込による）平成29年1月4日から平成29年1月31日まで
振込先 三井住友銀行京都支店（銀行コード 0009 店番号 496）
口座名義 国立大学法人京都大学
口座 普通預金
口座番号 8089363

振込手数料は自己負担です。京大の領収書は発行しません。備考欄には公開講座受講料と記入してください。

*銀行振込書が領収書に変わるものですから大切に保管してください。

*振込時の領収書（写）を、当方に郵送かFAX(075-753-6191)で直ちに送信してください。

7. 宿泊

宿泊の必要な方は、各自で手配して下さるようお願いいたします。

8. その他

講習会についてのお問い合わせは上記「公開講座係」宛にお願いします。

申込用紙は京都大学ホームページからもダウンロードできます。<http://www.kyoto-u.ac.jp>

第1クラス 短期集中講義形式による複式簿記の原理と実践―農業経営の改善を目指して―

京大農学研究科 教授 小田 滋 晃

准教授 伊庭 治 彦

近年、わが国の農業経営は著しく変貌し、その経営形態も伝統的な家族経営から法人経営や集落営農にまで多様化してきている。そして、これらの農業経営は、昨今の国際的・国内的環境変化のなかで、経営改善・強化の必要性に迫られている。こうした状況下で短期、長期の観点から合理的な経営改善・強化を図って行くためには、複式簿記記帳をベースとした経営諸活動に関する記録とそれらに基づいた分析・利用が不可欠であることはいうまでもない。

本クラスではこのような農業経営をめぐる状況を重視し、以下に示すような複式簿記および農業簿記・会計に関する基礎的知識及び技術の理解、習得を目的とした講義、実習を2日間で集中して行う。また、本クラスは短期集中的な講義と実践的な課題実習の併用により、複式簿記に関わる各種検定試験の初期準備段階としての位置付けも射程に入れている。

複式簿記一般

- 複式簿記の歴史や生成・発展過程を概観することで、その記帳に関わる基礎原理を学ぶ。
- 複式簿記の計算単位である「勘定」の計算構造を複記入（ダブルエントリー）、および負値忌避という観点から理解する。
- 複式簿記の記帳ルールを貸借のバランスという観点から理解する。
- 仕訳帳の意義と役割を「経営活動の歴史的記録」という観点も含めて理解する。
- 仕訳のルールと手順をその仕組みを踏まえた上で理解する。
- 仕訳帳から元帳への転記が持つ意味について理解する。
- 試算表の役割と記帳の正確性に関する検証機能について理解する。
- 決算に関わる振替仕訳の理論構造を学ぶ。
- 決算に関わる各種の決算整理について、その理論的な意味と手順を学ぶ。
- 精算表の意味とその作成手順、帳簿締切りと財務諸表の作成手順、次期への繰越手順について学び、複式簿記を循環した流れとして理解する。

農業簿記・会計

- 企業経営と比べた場合の農業経営の特殊性を簿記記帳・会計に関わらせて理解する。
- 農業簿記に特有な勘定や記帳方式、評価方法について基礎的知識を習得する。
- 家族農業経営と法人経営、集落営農組織各々における簿記・会計上の特徴について学ぶ。
- 農業経営をめぐる会計問題・資金問題に関わるトピックを知ることによって、農業簿記・会計を習得することの重要性を再確認する。
- 記帳結果の利用による経営改善計画の策定とその実践のあり方について、主要な経営分析・診断方法、経営改善計画の策定等と関わらせて概説する。